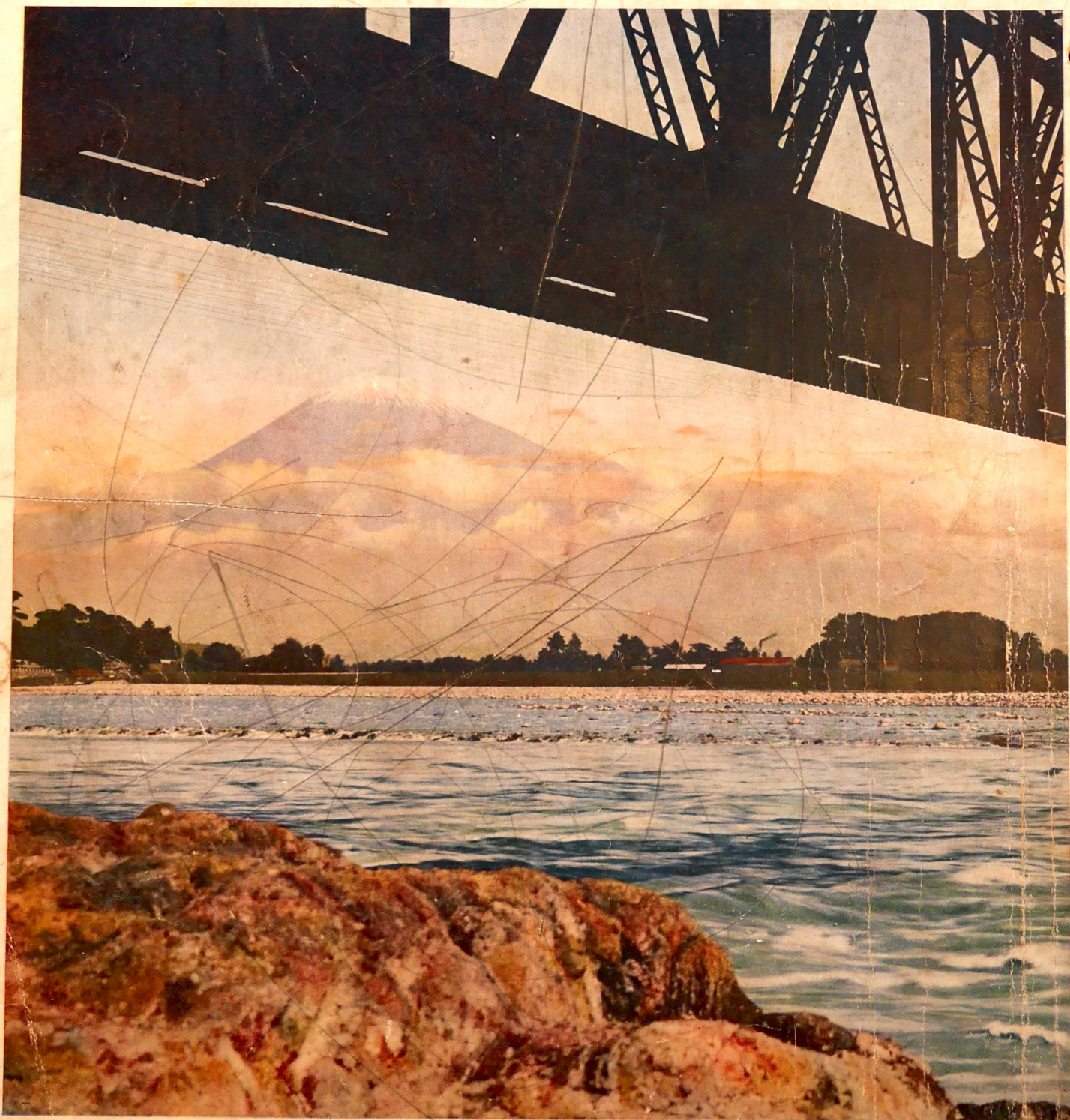
THE PICTORIAL WORLD

世界畫報

第七巻
第七號

七月號

昭和六年
七月一日發行

大正十五年十一月十日第三種郵便物認可（每月一回一日發行）
昭和六年六月二十日印刷納本　昭和六年七月一日發行

東京　國際情報社發行

世界畫報 第七巻 第七號

連續掲載 特別附錄 明治神宮壁畫集

明治大帝の御聖德を偲び奉り、御鴻業を不朽に傳へんとする明治神宮聖德記念繪畫館の壁畫は、本誌が昭和五年の新年號から連續掲載して、非常な賞讃を得て居ります。

◇**昭和五年度**◇

- 新年號 **日露役旅順開城** 荒井陸男畫伯筆
- **歌御會始** 山下新太郎畫伯筆
- 二月號 **日露役奉天戰** 鹿子木孟郎畫伯筆
- **熊本籠城** 近藤樵仙畫伯筆
- 三月號 **五箇條御誓文** 乾南陽畫伯筆
- **大婚廿五年祝典** 長谷川昇畫伯筆
- 四月號 **凱旋觀兵式** 小林萬吾畫伯筆
- **下關講和談判** 永地秀太畫伯筆
- 五月號 **日露役日本海々戰** 中村不折畫伯筆
- **東京慈惠病院行啓** 滿谷國四郎畫伯筆
- 六月號 **皇后宮田植御覽** 近藤樵仙畫伯筆
- **臺灣鎭定** 石川寅治畫伯筆
- 八月號 **琉球藩設置** 山田眞山畫伯筆
- **不豫** 田邊至畫伯筆
- 九月號 **日韓合邦** 辻永畫伯筆
- **廣島大本營御親裁** 南薰造畫伯筆
- 十月號 **凱旋觀艦式** 故、東城鉦太郎畫伯筆
- **赤十字總會行啓** 湯淺一郎畫伯筆
- 十一月號 **御元服** 伊東紅雲畫伯筆
- **華族女學校行啓** 跡見泰畫伯筆

◇**昭和六年度**◇

- 新年號 **靖國神社行幸** 清水良雄畫伯筆
- **敎育勅語下賜** 安宅安五郎畫伯筆
- 二月號 **習志野之原演習行幸** 小山榮達畫伯筆
- **山形秋田巡幸鑛山御覽** 五味淸吉畫伯筆
- 三月號 **岩倉邸行幸** 北蓮藏畫伯筆
- **農民收穫御覽** 森村宜稲畫伯筆
- 四月號 **樞密院憲法會議** 五姓田芳柳畫伯筆
- **廣島豫備病院行啓** 石井柏亭畫伯筆
- 五月號 **踐祚** 川崎小虎畫伯筆
- **憲法發布觀兵式行幸啓** 片多德郎畫伯筆

德川邸行幸

―明治神宮聖德記念繪畫館壁畫―

木村武山畫伯筆

◇

義公德川光圀は、その身德川三家の内水戸家の主でありながら、當時幕府の勢熾にして、皇室の尊嚴を知らない狀態を嘆き、學者を招き、書物を集め、國史を調べて明曆三年始めて大日本史を編纂して、大義明分を正しその晩年に至つては、天下の副將軍として善を賞し惡を懲して、常に益世濟民を志し世人の尊崇厚いものがあつた天朝その功を賞し給ふて天保三年五月詔して從二位大納言を賜り、明治二年十二月又詔して從一位を明治三十三年には正一位を追贈された。

烈公德川齊昭は同水戸家幕末多難時の主又常に天朝を尊び、幕府を敬して誤たず、幕末多事の時に際してよくその道を謬らずして名主の譽高かつた。朝廷その功を嘉し給ふて文久二年從二位權大納言を、明治二年十二月又詔して從一位を追贈せられた。

◇

明治大帝は斯樣な功臣の功業を嘉し給ふては贈位、追賞遊ばされ又その遺族には父祖の業を嘉し給ふて親しく勅語を給ふなどの事を遊ばされたが、本圖は明治八年四月四日、大帝が小梅村なる德川昭武邸へ行幸遊ばされ、光圀、齊昭等の遺書を御覽になり家族に謁を賜ふて、父祖の業を嘉し給ふた御模樣を木村武山畫伯が謹毫したものである。

名勝八景 大山夜雨
坂前
不動
頂上之図
豊国画

實質的に恐るべきドイツ海軍

一敗地に塗れ、國際會議の定めた數量以外には一兵の增加さへも許されぬドイツ海軍には、往時の軍國ドイツ大海軍の威容は片影だに見えないが尙武の氣風に富み、不屈不撓性と精力性に優れたドイツ魂は、列强の鋭い目を渾身に浴びて、少い兵員、艦數を質的に優秀ならしめる爲めの努力を常に怠らない。寫眞はドイツ全艦隊が、スウイネ・ミュンデ港に投錨した折の光景である。

五國立公園の一に選ばれた

上高地の景勝

日光、十和田湖、富士箱根と共に五國立公園の一として選ばれた日本アルプス上高地は、周圍に穗高岳、燒岳等三、〇〇〇米に達する峻峰をめぐらし、太古不鉞の天然林は、阿蘇雲仙梓川の兩岸を蔽ふて景觀頗る卓絕である。遠く人家を離れて海拔五千尺の塵外に、水淸く、大氣冷やかに眞珠の樣な宮川池、田代池等の湖沼は水を湛えて刻々に變化する高山的氣象に伴ひ一段の生彩を加ふる景觀は所謂日本アルプスの精粹で他に類例のない獨特の風景地として將又天下の絕景として國の內外に聲價を高めつゝある。

皇太后陛下
御近影

皇太后陛下には、御健康益々勝れさせ給ふて、大宮御所に靜かな御日を過させられると洩れ承るが五月十六日には御久々振りに上野帝室博物館の國寳展並に東京府美術館の日華展へ行啓、藝術の御觀賞に一日を過ごさせられた。殊に國寳展において、京都清凉寺藏の十六羅漢圖の表装は曾つて九條公爵家で寄進した由緒あるものである事を聞し召され御興いと深く拜された。寫眞は日華展行啓の皇太后陛下

お可愛い孝宮さま

かれて御風邪のため、御靜養中であつた孝宮和子内親王殿下には、全く御快癒遊ばされたので、五月廿二日葉山御用邸に御駐泊中の御兩親陛下並に照宮、順宮御姉妹宮様の御許に成らせられた。この日、今年御三歳にならせられ、御可愛い盛りの孝宮さまには、お可愛らしい御服裝で、伊知地女官お抱き申上げ、永積侍從等お供の上午前十時廿二分東京驛發電車に召され、同十一時廿三分逗子驛御著直ちに自動車で葉山御用邸に入らせられた。寫眞は東京驛で謹寫の孝宮さま

照宮さま
葉山へ御成

照宮さまにも先般來輕い御風邪の御氣味で御靜養中であつたがすでに御本復遊ばされたので、天皇、皇后兩陛下御駐泊中の葉山御用邸に赴かるべく五月十九日午前十時廿二分東京驛發の電車で本多侍從、小倉女官がお供申上げ、可愛らしいお振袖に紅い袴を召され、いと御元氣に同十一時廿二分逗子驛御著、自動車で葉山御用邸に入らせられた。照宮さまには、今年御七歳にならせられるが、殊の外御身大きく拜される。との事である。寫眞は東京驛のホームをおひろひになる照宮成子内親王殿下

東伏見伯の
寶雲抄成る（上）

久邇宮殿下の御弟君で先程臣籍御降下、東伏見家を創設せられた邦英伯はこの度『寶雲抄』を著述民友社から發行された。同書は伯が中學四年時代から奈良を中心とした古社寺の研究、印象、感想等を學習院輔仁會雜誌に載せたのを集めたもので秋篠寺を最初に不退寺、三月堂、法隆寺唐招提寺などに亘つてゐる。文章は平易で高雅『月の三月堂』の如きは一種の詩を朗讀するやうな感じを與へるといふ。

同書の刊行披露會は五月廿三日帝國ホテルで東伏見伯を主賓として開かれたが、寫眞中央挨拶なさるのが伯で、伯の左は小泉策太郎氏、右本山彥一氏、黑板勝美博士

御歸朝を御待かねの
德川公爵家（下）

高松宮同妃兩殿下には、御外遊の長い御旅を終らせられ五月廿八日桑港出發の秩父丸で御歸朝の途につかれ、六月十一日横濱御着の御豫定にあらせられ、本誌が讀者の手に渡る頃は我等の海の宮樣をお迎へした欣びを倶にする事と思ふが妃殿下の御里方小石川區第六天町の德川公爵家では實枝子母堂はじめ妃殿下の御妹君喜佐子、久美子の兩姫君にも御歸朝のうれしい日を指折り數へてお待ち兼ねの事である。寫眞は德川家の中庭で若草に親しむ實枝子母堂と喜佐子（左）久美子（右）の兩姫君である

『呉 門 橋』第十八回日本水彩画会展出品 眞野紀太郎画伯作

御大任を果させられてめでたく御歸朝遊ばされた

高松宮、同妃兩殿下

横濱岸壁著の御召船秩父丸甲板上の兩殿下

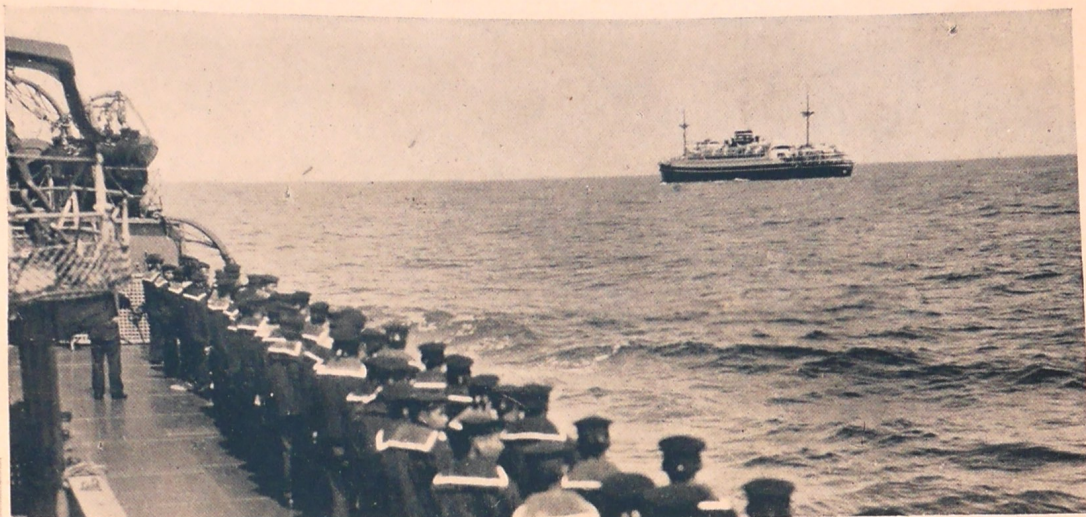
東京驛御着の兩殿下

昨年四月廿一日、御成婚後間もなく英國ガーター勳章の御答禮、並びにスペイン國皇帝陛下への我國大勳位菊花章頸飾を御贈進の御大任を帶びさせられて御渡歐の途につかせられた高松宮同妃兩殿下には、重き御使命を果させ給ふて後、イギリス、フランス、ドイツ、イタリー、ベルギーその他新興國トルコ、ポーランド、さては遠く北歐の國々まで親しく成らせられ、更に北に及んだ。兩殿下には各國の元首、宰相、貴顯名士と御交驩遊ばされ、英明なる親王殿下の御豁達、典雅にして又優美なる妃殿下の御應對振りは至る處欣仰の的とならせられたのであるが、六月十一日、一年二ケ月の御旅を終らせ給ふて、めで度く御歸朝遊ばされた

(上圖)は東京驛御着、御出迎への各皇族方と御挨拶遊ばされる兩殿下である

(下圖)兩殿下を御出迎へに成らせられ

光榮の御召艦秩父丸は、十一日午後一時五十分横濱四號岸壁著、兩殿下には官民の熱誠な奉迎を受けさせられて御上陸遊ばされ、二時四十五分の御召列車でお懐しの帝都へ向はせられた。これより先東京驛ホームには、各宮殿下をはじめとし、若槻首相以下の國務大臣、各國大公使等お待ち申上げれば三時廿五分御乘用御召列車は無事到着兩殿下には長途の御疲勞の御模樣もなくいとも御元氣にホームに降り立たせられ、各皇族方と御握手を交され奉迎の諸員に御會釋を賜ひつゝ皇族乘降車口に進ませられた。かくて午後四時高輪御殿に入らせられ、御少憩の後宮中へ參內、天皇、皇后兩陛下に御對面御復命、更に大宮御所に皇太后陛下に御對面遊ばされた。

(上圖)御召自動車が高輪御所著の光景
(下圖)御迎への高松宮妃殿下の御母堂と御一門の令嬢達

（上圖）晴れの御歸朝をなさる高松宮、同妃兩殿下の御召船として、はろけき太平洋の航路恙なく横濱港外に姿を現した秩父丸

ハワイ御立寄の 高松宮兩殿下

（中圖）御歸途ハワイへ御立寄り遊ばされた際の高松宮兩殿下

（下圖）昨年四月廿一日御渡歐の壯途につかせられてから正に一年二ケ月、市民は感激の餘り熱狂せんばかり、横濱岸壁は萬歲の聲に滿され、國旗は何時迄も高く〳〵打ふられて、鵬程萬里、長途の御巡歷を御恙なく終らせられて御歸朝遊ばされた高松宮兩殿下をお迎へしたのである。寫眞は兩殿下をお迎へした横濱靑年團處女の一團である。

（上右圖）兩殿下とも船には御强くあらせられ、船内の催し物などには殆んど缺かせられず御出ましになり總べて船客と御生活を共に遊ばされたので、乘客は感激惜く能はなかつたが寫眞は船内に御食事中の兩殿下。

アメリカに於ける
兩殿下の御動靜

（上左圖）アリゾナ、グランド、キャンオン御見物中の兩殿下

（下圖）米國に於ける兩殿下が、官民の熱誠な歡迎をうけさせられたはいふまでもないが殊に在留邦人の熱狂的歡迎は、米國民のそれとは又異なつた熱誠さがあつた。寫眞はロスアンゼルスへ御成りの節御召車が我が國際情報社、加州支局前を御通過あらせられるところで、小學生の手にする日の丸の旗に兩殿下の御感慨も一入深かつた事であらうと拜察する。

太平洋横断に失敗したアッシュ中尉

一九三一年の航空界に唯一つ殘された問題、太平洋無著陸横斷大飛行を決行して一躍世界の寵兒とならうとの野心に燃ゆるトーマスアッシュ氏は、昨年プロムリー中尉の殘したタコマ市號をパシフィック號と改稱して、專ら諸種の準備を進め、五月廿一日出發と決し離陸を試みたが失敗して、出發を延期、また延期して成行を悲觀されてゐたが、六月一日午後一時に至り、遂に、機に飛揚力なく横斷飛行を斷念するとの聲明書を發表し世人の期待を裏切つた。(上圖)太平洋横斷の壯途に無償の勞力を惜しまなかつた三澤村々民がパシフィック號を滑走臺へ引張るところ。(中圖)淋代海岸を飛翔中のパ機(下右)三澤村々長令孃から花輪を贈られるア氏(下左)三月廿一日帝國ホテルに於ける日米協會のア氏歡迎會

學生の渡欧機出發

日本靑年の意氣を乘せて、東京ローマ間鵬程一萬四千二百九十キロ、訪歐の大壯途につく法政大學訪歐機『靑年日本號』は五月二十九日、快晴微風の申し分のない好天氣に惠まれ歡呼の聲に送られて羽田、東京國際飛行場を出發、輝かしい征空の途に上つた

(上圖)重任を帶びて雄々しくも出發せんとする直前の栗村盛孝正操縱士(法大經濟學部二年生)と熊川良太郎副操縱士(中圖)花輪を受ける兩氏(下圖)『ローマに通ふ道一つ新たに開く雄々しさよ』の歌に送られ、爆音勇ましく歡呼の波濤を後に離陸した刹那の訪歐機と萬歲を叫んで見送る小學生

選士權に輝く 春日野

大正十四年五月、横綱栃木山は惜しまれつゝ引退して春日野を稱し年寄となつた。然し引退、年寄と稱しても我好漢春日野の場合は日本人が通弊とする老朽、退嬰の意でなかつた事が嬉しい。先頃開催された大日本相撲選士權大會に於ける彼の奮闘は初日以來さながら無風帶を行くが如く現役選士を薙ぎ倒して完全に選士權を獲得した。彼、春日野今年四十才である。曩に千葉選手が、四十四才を以て尙壯者を凌いで青森東京間マラソンに優勝するあり、これと共に四十才の聲を聞くとすぐ年寄風を吹かし隱逸を貪りたがる人々に以て手本とせよと叫び度い。寫眞は東京市長杯を手にした春日野

鳥居清廣筆
通油町 豊仙堂丸屋
丸小板

夕涼み図　　磯田湖龍齋筆

浮世繪版画のはなし（その二）

高澤初風

◇懐月堂の版畫

前にも申した通り師宣から漆繪、紅繪時代にかけて、その一枚摺版畫浮世繪作家には、鳥居派を始め有名な人々が大分生れて居りますが、此時代に於て又肉筆の方面には懐月堂や、宮川長春などが現れて居ります、長春は肉筆物ではあれ程に澤山のいゝ物を遺して居りますが、版畫は今日まで未だ一點も發見されて居りません、併し懐月堂には相當多く版畫が遺されて居ります、鳥居派その他の人々が、當時の演劇を畫材として役者繪や遊女の繪を多く描いたのと同様に、懐月堂は主として此遊女の方ばかりを肉筆にも版畫にも澤山描いて居りまして、着物の模様や帶などには極めて華麗な文様を描いてゐるに反し、その線は極めて太く、多くは一人立の遊女として此派の畫風に一特色を出したのでありますが、その版畫は懐月堂の始祖と見られてゐる、安度ではなくその派に屬する度辰、度繁、安知などでありまして、殆ど大判の丹繪ばかりと云つてもよい程であります。奥村政信が同じ大判の丹繪で『美人圖』を出して居りますのを見ますと、その手法が頗る似てゐるのがあります、正徳四年に奥女中の江島が、役者の生島新五郎との有名な事件を起しました時に淺草藏前に住んでゐた岡崎源七と云ふのがその黑幕で働いた事から、流刑に處せられましたが、その源七が此懐月堂の始祖と見られてゐる安度なのですが門葉としての度繁、度辰、安知などの傳記は今日まで傳はつて居りませんので、どんな人物であつたか無論不明なのであります。

◇鳥居派の紅繪

紅繪の作家としては前に述べました人々の外に鳥居清廣があります、是は清滿と殆ど時代を同じくして居りますが、矢張り役者繪を主として、相當いゝ作を遺して居ります、作畫期は寶暦六年頃とされて居りますが、大和繪師の肩書きなどを用ゐて相當重きを爲したと見られて居ります、此時代は鳥居派が浮世繪界に全盛だつた事はまだ鳥居清重と云ふのが多くの作品を出してゐるのでも知られます、此人は清信の門人でありまして、享保から寶暦へかけ、即ち筆彩色の時代から、色刷の時代までを作畫期と見られて、清信の晩年に似た作風を示して居りますので、研究家の注目する處となつて居ります、清信や奥村政信などの影響を受けて、一特色を有した西村重長が、寶暦六年に歿して門下の石川豐信が次いで現れて重きを爲した事は前に記した通りでありまして、是が天明頃にかけての時代で、版畫界に一區劃をなす、鈴木春信が愈々明和から現れて來たのであります。

◇錦繪の時代來る

春信の版畫作品時代からどうして錦繪と云ふ名が出て來たか、それを玆で一通り說明する必要があります、

（右）『珠取り』鳥居清重筆
（上）『ほたる』鳥居清滿筆
（下）『浴　　後』西村重長筆

『つけ文』　鈴木春信筆

『海女』　鈴木春信筆

『湯に入る女』　鈴木春信筆

來それまでの紅繪と初期の錦繪とを比較して見ますと、唯色の種類に多少の相違があるだけにしか見えませんが、是を仔細に見ますと、紅繪の方は極めて單純な色の使ひ方でありますが、錦繪の方には三色を掛け合はせて復色を出したりして、非常に複雜して居るのであります、而もその形に於ても、紅繪が細繪判が多いに反して春信の錦繪からは中判の正方形の物が現れて來てゐるのであります、斯うして紅繪から錦繪が發達して、色彩の絢爛なものが現れて來ましたので、當時の人々はまるで錦の如くに美しい繪だと云つたのが、此錦繪と呼ばれる因となつたのだと云はれて居りますが、支那の版畫は當時既に錦繪と云ふ名稱を用ゐてゐたと云ふ說も傳はつてゐるのであります、處で紅繪から錦繪となりますまでに、役者や美人畫などのあの版畫形式から放れて、別に兩者の間を橋渡しをした摺物があつたのでありますそれは繪暦や配り物などの、小さい版畫でありまして、狂歌が非常に流行してゐる一方に三味線彈きとか歌唄ひなどの藝人も、大分榮えて居りました頃とて、年始の配り物、各披露目の摺り物、或は狂歌の摺り物などに、いろ〳〵の色を使つて贅澤な摺り物を、交換したり、贈り物としたりして、世間の好事家が非常に喜んでゐたのであります、是が明和二年頃でありまして、その頃の摺り物が今日でもよく發見される事がありますが、此いろ〳〵の色を浮世繪版畫の方に始めて應用したのが鈴木春信であつたのであります。

◇鈴木春信の錦繪

↑『風の柳』 鈴木春信筆

←『爪を切る女』 鈴木春信筆

當に描いたのでありますが、その技倆は明和の錦繪時代に入つて、獨特の作品となり世間に持囃されるやうになつたのであります、無論それには色摺りとしての美しさが、歡迎される一原因にはなつて居りますが、その描かれる婦女や若衆などが如何にも優美で、顔には喜怒哀樂の表情はないが、そのなごやかな姿態が如何にもよく女の優しさや心持ちを現して居ります『春信の夢の女』と云ふ事をよく申されますが、全く夢に見る女のやうな獨特な味を出しましたので、非常な流行となり明和から安永にかけての美人畫は、此春信風が風靡して了つたのであります、從つて春信描く處の版畫の數も非常にあり、又繪本類も相當に遺されて居りますが、美人畫としての『笠森おせん』とか『柳屋おふぢ』とかは、當時の江戸で評判だつただけに、その畫も又有名になつたのでめります、今日でも復製版に『八ツ橋』や『汀の風』や『相合傘』『鷺娘』などの外澤山の美人畫が現れて居りますが、その作畫數は非常に多かつたのであります、處が春信の死んだのは明和七年で四十六歳で歿したとされてゐますから、始めて錦繪を出した明和二年からは僅かに五年間でありますので、此間にあれだけの作品を遺したとすると、非常に多忙な代りに又それだけ流行したと見る事が出來ます。春信の師は西村重長とされて居りますが、明かでないばかりか豐信、政信、祐信などの影響の方がその作品に餘計現れてゐるのであります、本姓は穗積次兵衛、長榮軒、思古人、蕉亭などとも號し、江戸で生れて兩國米澤町に住んでゐたと傳へられてゐます。後に日本に於ける油繪や銅版畫の始祖と呼ばれた司馬江漢が、此明和の時代には鈴木春重と名乘つて居りまして、春信の僞作を盛に出したのも、春信が非常に榮へたからであります。

◇湖龍齋と春信一派

春信の門下だと云はれます磯田湖龍齋の作畫は、非常に春信に似て居りまして、

『今様藝婦風俗』 磯田湖龍齋筆

←『風呂場』 礒田湖龍齋筆

→『鏡の前』 礒田湖龍齋筆

墨水八景『橋場の夜雨』 一筆齋文調筆

一寸見ると春信か湖龍か判らないのがある位であります常陸土浦の土屋家の士であつだが浪人して春信の門に入り、春廣と云ひ、後に湖龍齋と號したが、本姓を礒田庄兵衛正勝と云つた相ですが、日本橋の薬研堀に住んでゐたと云ふ以外の事は傳記にも傳はつて居りません。時代は矢張り明和から天明にかけてゞありますが、此湖龍齋も又相當に美人の版畫を多く遺してゐますが、春信の畫風其儘ではありますが、是を並べて見ますと、春信より餘程技倆が劣つてゐる事が知れるのであります、柱絵と中判物に此人としてのいゝ作畫が相當にありますが、湖龍齋の描いた秘戯畫は、最も此人の技倆をよく發揮したものだと云はれて居ります、浮世繪畫家と秘戯畫とは放れられない關係を持つて居りまして、師宣を始めとして殆ど有名な畫家は皆それを描いて居りますが、玆にはそのお話しを避ける事と致します、此時代の春信風の繪と云ふものは非常にありまして、江漢の鈴木春重、田中益信、駒井美信、花房重信、鈴木春治、などは最もよくその畫風を一にしてゐるのであります、錦繪の初期時代には是等の人々が大に活躍してゐるのでありますが、次いで述べます勝川春章、一筆齋文調の一派も又重要な地位を占めて居りました事を御存じであらうと思ひます。

『海女圖』

鳥居清廣筆

清廣は鳥居氏二世清倍の門人であつたがその傳記は詳らかでない。鳥居派の役者繪を作る傍ら、優れた美人畫を畫き、殊に裸體美人は彼の得意とするもので、本圖の如きは清廣の繪にもつとも油の乘つた寶暦頃の作で、鮑取りの海女が海から上つて來て湯文字の水をしぼつてゐる所、色彩の絢爛な錦繪であつたら隨分下品なものにならうが、紅摺繪である丈に何處かに落付いた品位をもつてゐる。(浮世繪版畫のはなし參照)

槍ヶ嶽の
お花畑と雪溪

槍ヶ岳は、日本北アルプス中の最高峰、海拔一〇、四八九尺……などゝ今更の樣に說明しなくても、大抵の讀者諸君は御存知の筈です。夏休みに二三日の山行を樂しまうと云ふ人々には絕好の山と云つてもよいでせう。お花畑の美しさ、雪溪の素晴しさ、巍然として屹立する岩狀の偉大さは何度みても魅力の深いものです、山容の峻嚴な割合に危險率も尠く、一夏に千人近くの人が登山しますが遭難したと云ふ話はあまりきゝません。少し山に經驗のある人なら安心して行かれます。（寫眞は、槍ヶ岳のお花畑と雪溪）

嶮峻を誇る穂高の岩容

穂高嶽は、穂高、前穂高、奥穗高、北穗高等の諸峰よりなる日本北アルプスの一大群峰で、その岩狀の峻嚴な事は恐らく日本一と云つても差支へないでせう。中でも奥穗高は最も嶮峻です。從つてこの山へ登るには相當山になれたしかも、ロッククライミングに熟練した人でなければ不可能です。寫眞は、比較的低く、嶮はしくないと云はれる前穗高の岩容です。

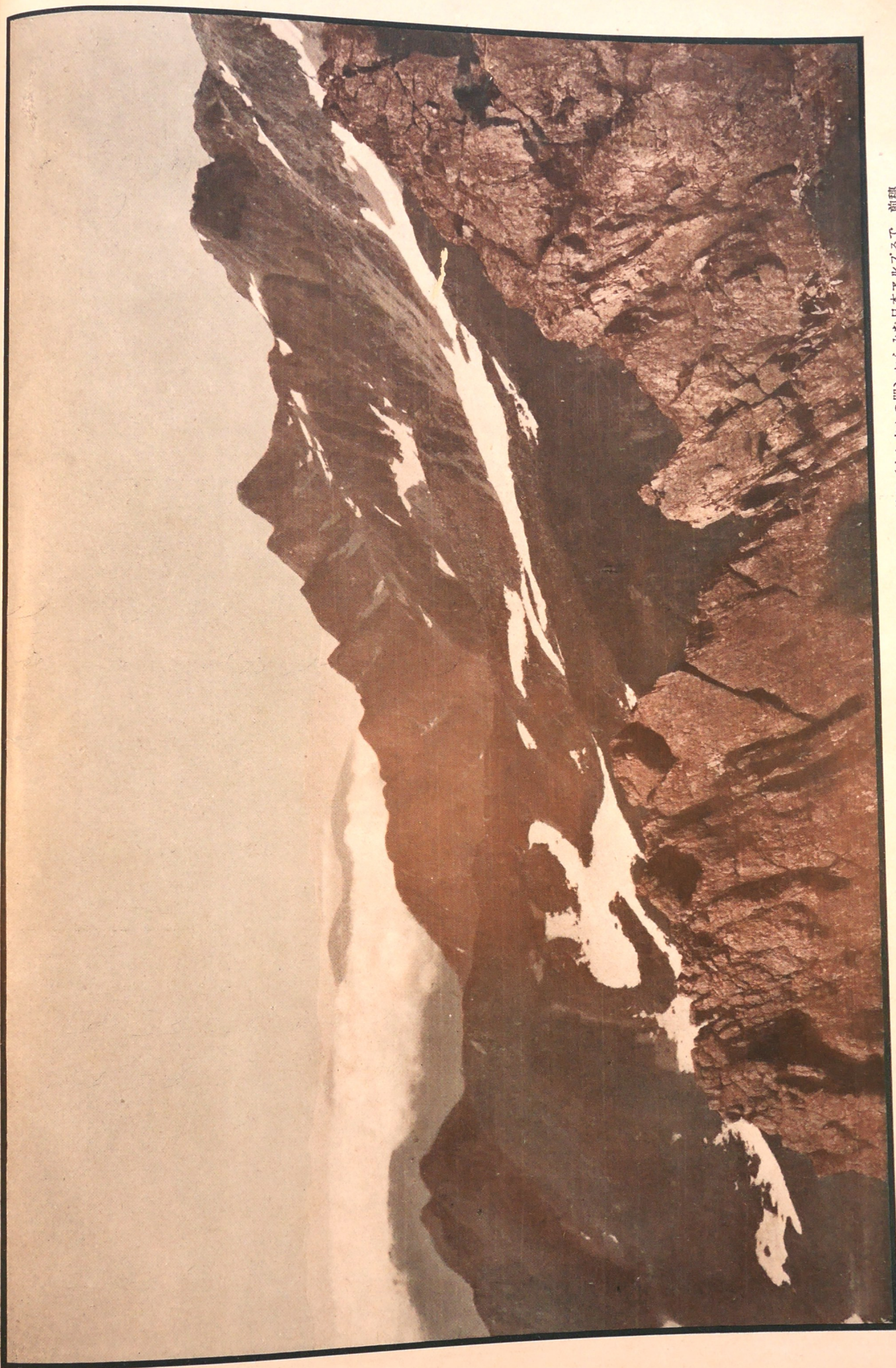
中津川の幽寂境

中津川は、山梨縣甲武信ヶ岳の絕頂附近から起る眞の澤その他の溪流が合流して秩父の東側を流れ、やがてこれが荒川となり隅田川ともなるのです。中津峽を探勝するには秩父電鐵の秩父大宮から入つて日歸りでも行けますが、本當に中津峽の幽寂境を知らうとするには、栃本十文字峠、梓山等をまわつて歸途に中津川下りをする二三日のコースをとるに限ります。近頃は餘程奥まで行かないと、俗化された平凡な場所が多い相です。寫眞は中津峽中雙里部落の風景です。

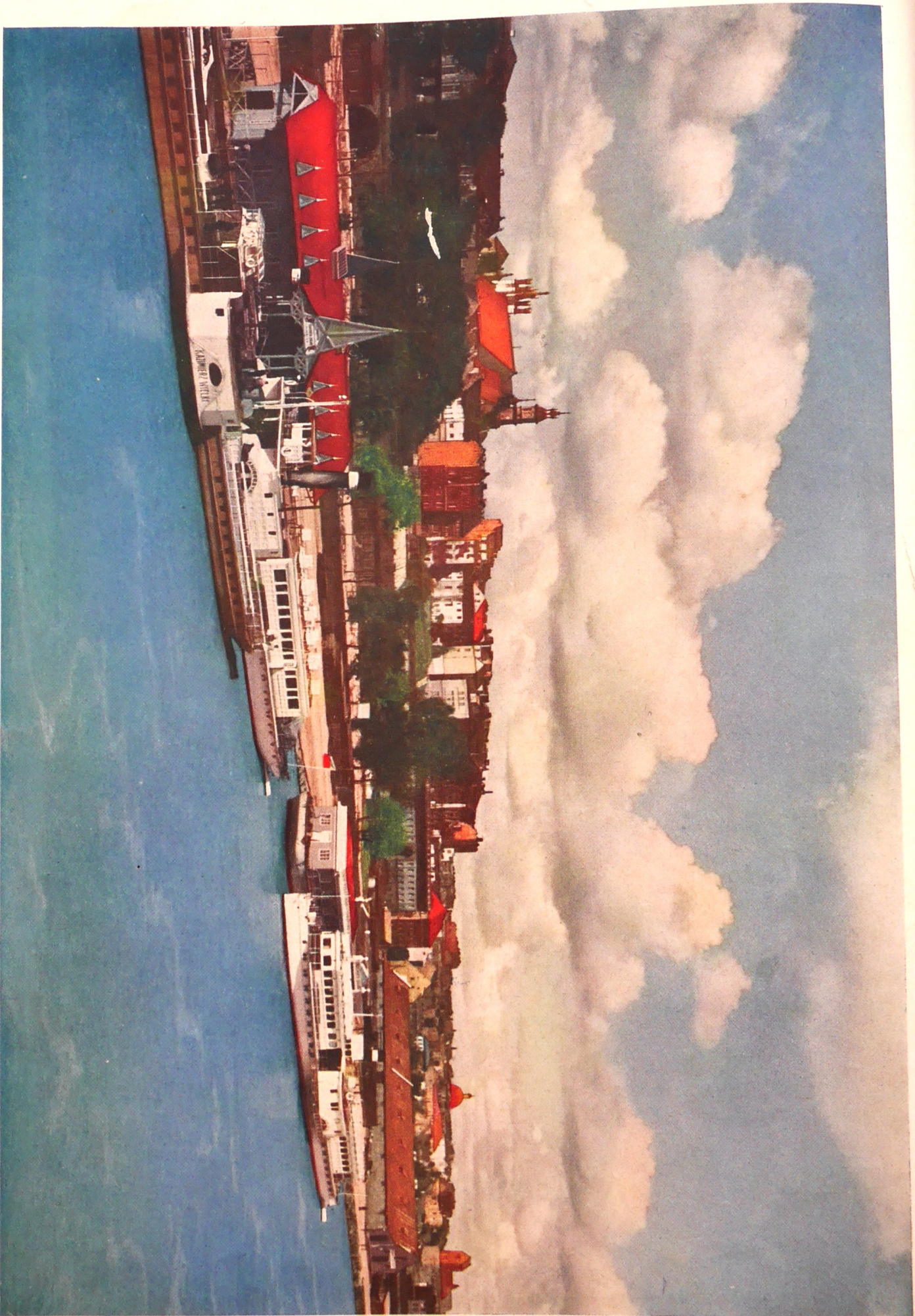
白馬岳のお花畑

白馬岳は長野縣と新潟縣の國境をなす、海拔一萬尺の尨大な山です、しかも登攀は割合にやさしく、女子供でも樂に登れる相です。頂上の眺望は實に素晴しく、日本アルプスの諸群峰はいふに及ばず、渺々たる雲烟の彼方に日本海の波頭を望む事も出來、西方立山群峰を望んだ山容は實に雄大なものです。雪溪の壯大さ、お花畑の美しさは世界一の稱があります。寫眞は白馬のお花畑。

上高地の河童橋

上高地は日本アルプスの入口とも稱すべき高原で、絕好の避暑地でありキャンピングライフの好適地とされてゐますが、近頃は東京のモダーン青年子女の野天クラブの様になつてしまつて、俗悪極る避暑地の様になつてしまつたのは實に遺憾千萬です。寫眞は上高地河童橋です

槍ケ嶽方面からみた
日本アルプス大観

槍ケ岳と西岳の按部（山と山との間）からみた日本アルプスで、前穂高の峻嶮をへだてゝ、茫々たる立山連峰を望んだ絶景です。

ポーランドの首府

ワ ル ソ ー

ワルソーは一五キロの間何物もないとドイツ人が冷笑する位殺風景な市であるが、ポーランド首府として恥しくない歴史的な大建築物に富んでゐる。人口九十萬餘、その位置四通八達交通の國際的中心に位するので自然商工業の發達を可能ならしめ、ロッズ市に次ぐ工業地として又商業の大中心地として榮えてゐる。この市の名物として珍しいのは、一時は五千名に達したといふワルソー美人の女大隊で、感傷的に艷っぽくのみ想像されるこの美人國に女性の軍隊出現は、國民の獨立愛國心の强烈を物語るものである。

眼が開いた！ミュッセルマン伯爵のよろこび

世に奇蹟といふものがあつて、自分達を不自由な闇の世界から救つて呉れないものかとは盲目である人の誰しもが希ふ事であらう。『目あきは不自由なものだ』と塙保己一が痩我慢を言つたつて矢張り目の見えない不自由さを喞つてゐたには相違ない。米國ミュッセルマン伯は大の野球ファンでしたが盲目の不自由さを嘆いてゐた一人で、僅かにラヂオを通じて野球戦をきゝ華々しい選手達の活躍振りを想像して自らを慰めてゐたのであるが、今度奇蹟的にも手術によつて眼が開いた。伯は視力が復活すると早速、多年想像の世界にゐた憧れの三人の野球選手を招いたが、眼前に彼等を見た伯はどんなに驚喜した事であらう。

寫眞は選手達を招いてボールにサインする伯で左からコクレーン選手、コリンズ選手、ミュッセルマン伯、フォックス選手である。

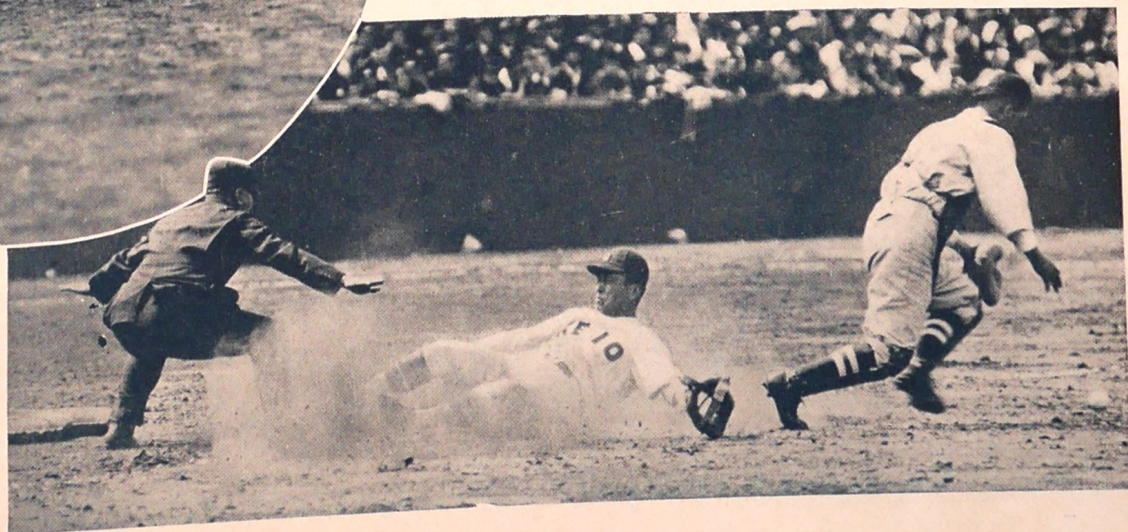
淋しい春の六大学リーグ戦

球界の不祥事 慶明二回戰のボーク問題

スポーツ黄金時代――殊に野球の全盛時代である。春秋の帝都六大學リーグ戰は斯界の華であり、最高權威を誇るもので野球フアンの血を沸かすもの、なればこそ神宮球場が擴張工事によつて、從來の收容人員に倍する六萬五千の收容力を誇つても尙去る五月十日の入場式當日の如きは三萬に餘るフアンがお斷りを喰つたといふものである。この盛況、このスポーツ熱の旺盛を欣ぶと共に、益々我が學生スポーツの健全な發達を歇望するのであるが、ここにはしなくも不祥事突發して野球界に一大汚點を印する事になつた。

↑ホームラン

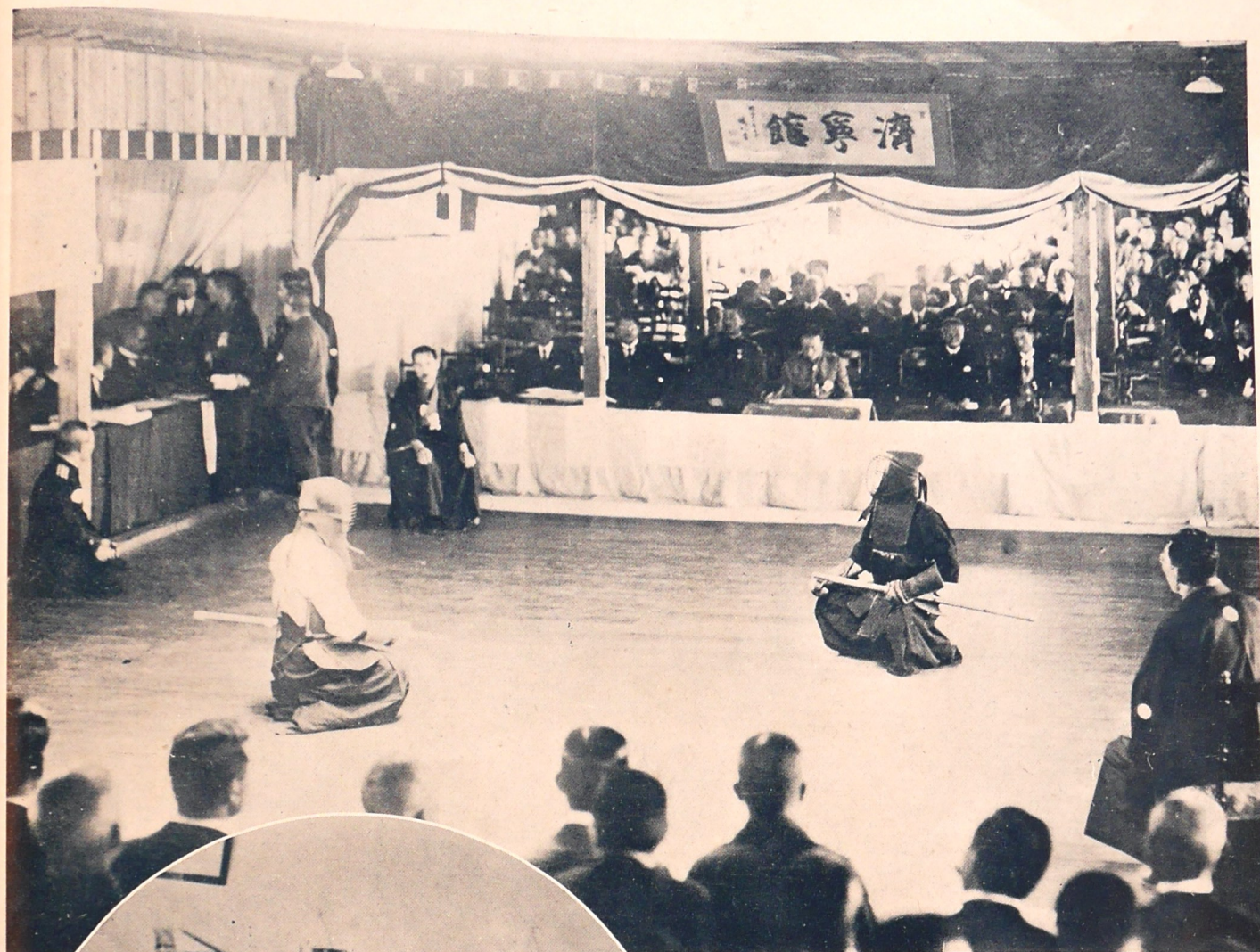
野球史上に一大汚點を印した慶明第二回戰は五月十八日帝立第二回戰に次いで開かれた。劈頭から激戰を展開して、滿場異常の緊張裡に戰は進められたのである。

(上圖)は同試合に於ける第一回の裏慶應攻擊の際、堀君を三壘に、梶上君を二壘において、小川君は左翼觀覽席に打込む本壘打を放ち、一擧三點を得て悠々生還のところである。

→ホームイン

慶明一回戰に、慶應一擧五點を獲得した四回の裏三壘にあつた井川君が小川君の安打にホームインの刹那

↑アウト

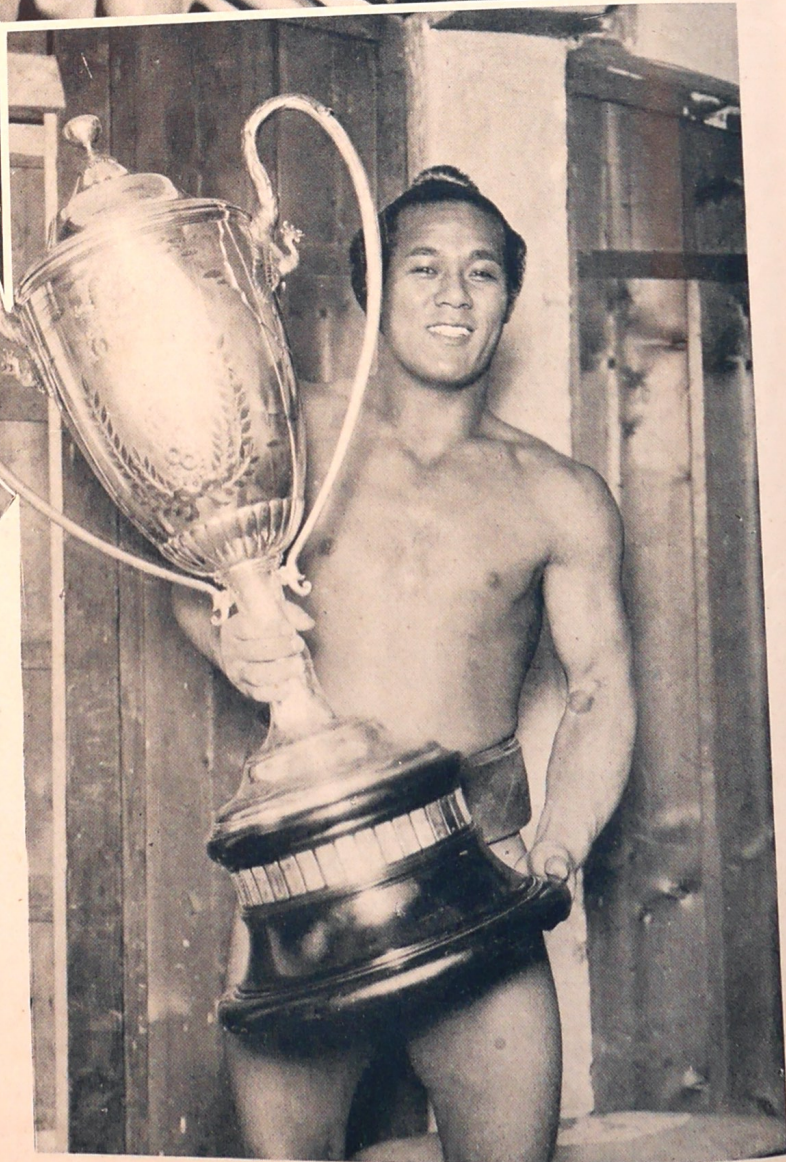
早明二回戰五回の裏、早大の黑木君は富永君の中堅安打に二壘から一擧本壘を衝いて野手の好投にアウトの刹那

五月十八日慶明第二回戰八回裏、慶應軍攻撃の際、一死にして走者三壘（川瀨）と一壘（水原）にあり、打者は奇襲を以てなる牧野、得點の差僅かに一點といふ滿場息詰る様な緊張にある時、明大の八十川投手は、突如三壘の走者を牽制せんとして一歩を踏み出し更にグルリと一轉して一壘へ投球した。ボーク、ボークー、はげしい叫びは先づ慶應側ベンチから起つて、主審淺沼氏も双手を擧げて試合を中止し、靜かに三壘の走者川瀨君を招いてホームインを宣した。激昂した明大應援團は審判の不當を鳴らして暴行狼籍を極め、ここに球界未曾有の大不祥事は惹起したのであるが、神聖なるべき學生スポーツに一汚點を印する結果となつたは返す〲も遺憾である（上圖）は五月十九日開催された六大學リーグ當局の緊急理事會（中圖）當分出場遠慮と定定した明大ナイン（下圖）慶明共に十九日紛糾事件の經過を報告し又今後の態度について聲明したが（右）は聲明報告をなす慶大腰本監督（左）は明大原田野球部マネヂヤー

全國高段者 武道大會（上）

宮内省皇宮警察部主催の全國から柔劍道の有段者を網羅した武道大會は、宮城内濟寧館で五月十六日午前八時半から開催された。同日は午後から閑院元帥宮殿下の台臨あり、五段以上の選手三十名も出場し彼の天覧試合の優勝者牛島五段と須藤五段の試合は當日の呼物となり、二日には梨本宮殿下台臨の下に警察軍對學生軍の試合あり大盛況であつた寫眞は第二日目の劍道試合

エヂプト王 柔道天覧

エヂプト、カイロにあつて、同國の警察學校に傭聘され我が柔道の師範をつとめつゝある石黒師範は去る四月十一日警察行政の爲めに非公式に同校に行幸遊ばされたエヂプト國王陛下の御前で畏くも榮えある柔道試合を天覧に供した。（寫眞上圖）は當日柔道試合天覧中のエヂプト國王御一行で（下圖）は光榮の石黒五段の一行である。

走つた！走つた！　長驅四百六十哩

奬健會主催の東京――青森四百六十四哩マラソンは、五月六日青森出發以來十二日間難行に耐えた選手六名は早春の青森から初夏の關東に入り、何れも感慨無量の面持ちで五月十七日晴れの都入り、決勝點の宮城前ゴールに入つた。（上圖）は老強千葉選手のゴールインであるが同選手は本年四十四才ながら累計時間は五十五時間廿六分一秒の驚異的記錄を作つて、全國ファンに異常のセンセーションを與へた。（下左圓）は同マラソンに於ける最終日都入り第一位の楠選手のゴールイン

夏場所の優勝者　武藏山關

横綱なしの今夏場所は、淸水川、武藏山、玉錦の三巴戰で人氣を沸騰させてゐたが、千秋樂に於ける武藏山の奮闘力戰はよく大剛玉錦を倒して優勝力士の榮冠を擔つた。寫眞は摂政杯を手に大ニコ〱の武藏山關である。

帝國學士院授賞式（上）

帝國學士院第廿一回の授賞式は五月十四日上野の同院に擧行し、櫻井院長から本年度授賞者研究に就いて詳細な説明あり後授賞式を行つた。寫眞は受賞者で右から恩賜賞工博妹澤克惟氏醫博三宅速氏文博宇井伯壽氏、理博增本量氏

兩大將親授式（中）

山本、大角兩海軍大將に對する勳一等親授式は五月十四日宮中鳳凰の間に於て行はれた、天皇陛下には陸軍樣式御正裝にて出御、若槻首相侍立、それぐ勳章を親授次いで首相より勳記を授けられた。寫眞は宮中退下の（右）大角（左）山本兩大將

兩博士へ壽像を贈る（下）

辯護士界の元老として知られてゐる原嘉道、花井卓藏の兩博士が辯護士生活を去つたので、帝國辯護士會及第一東京辯護士會では在職中の功績に報ゆる意味から兩博士に壽像を贈つた。寫眞は壽像の前に立つた（右）花井卓藏博士（左）原嘉道博士

一足お先に 石川別當歸朝（上圓）

昨年四月十一日鹿島立ち遊ばされた高松宮同妃兩殿下は重き御使命を果させられて、六月十一日久々で歸朝御遊ばされる事は先月號でおしらせした通りで本誌が讀者諸君の手に渡る頃は、我等の海の宮樣をお迎へ申上げた欣びを俱にすると思ふが、昨年御一行に加はつて、歐米諸國を御供中だつた宮家付別當石川岩吉氏は、兩殿下御歸朝後萬端の準備打合せの爲めワシントンで御一行と別れ先發として五月十五日の淺間丸で歸朝した。

西園寺公愛孫 公一氏歸朝（下圖）

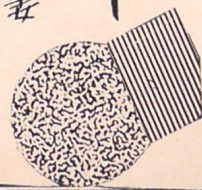
元老西園寺公の愛孫で、オックスフォード大學を目出度卒業した公一氏は今度外交官の試驗をうける爲め同じく淺間丸で歸朝したマクドナルド氏を語り、勞働黨の政策等の政治論をやり、祖父の名をはづかしめないものがあつた。氏は又大のスポーツマンでスキー、テニスが得意でカレツヂの試合にはよく出場したものだといふ。

キューバ國 新公使着任（左）

駐米キューバ國大使オレステス、フェララ氏は今回駐日公使を兼任する事となつて、矢張同じ淺間丸で來朝した。同氏は古くから日本に興味を持つて居つて、語學、美術其の他いろ／＼研究してゐたものであると『あらゆる機會を通じて兩國親善のため盡力し度い』と語つて帝國ホテルに入つた。寫眞は公使夫妻である

雪洲とミチオ夫妻渡米

世界の藝界に日本が送つた二人――活動寫眞の早川雪洲と舞踏界の伊藤道郎の兩氏は偶然にも、五月廿一日横濱出帆の龍田丸で米國へ出發した。雪洲氏は昨年歸朝以來舞臺劇に出演してゐたが突如パラマウント社と契約成立、同社のトーキー『ドクター、オブ・ドラゴン』に出演の爲めであつて、映畫界に返り咲く、捲土重來の意氣盛んなものがあり、又、道郎氏は三月、二十年振りで故國に錦を飾り各方面に出演して好評を博してゐたが、今度カリフォルニア大學で公演し、再び世界に乘り出さうとするもので東京驛頭は、劇團、舞踏界双方の見送りが合流して『早川、伊藤兩君萬歳』を唱へ近來稀にみる賑やかな光景を呈した。

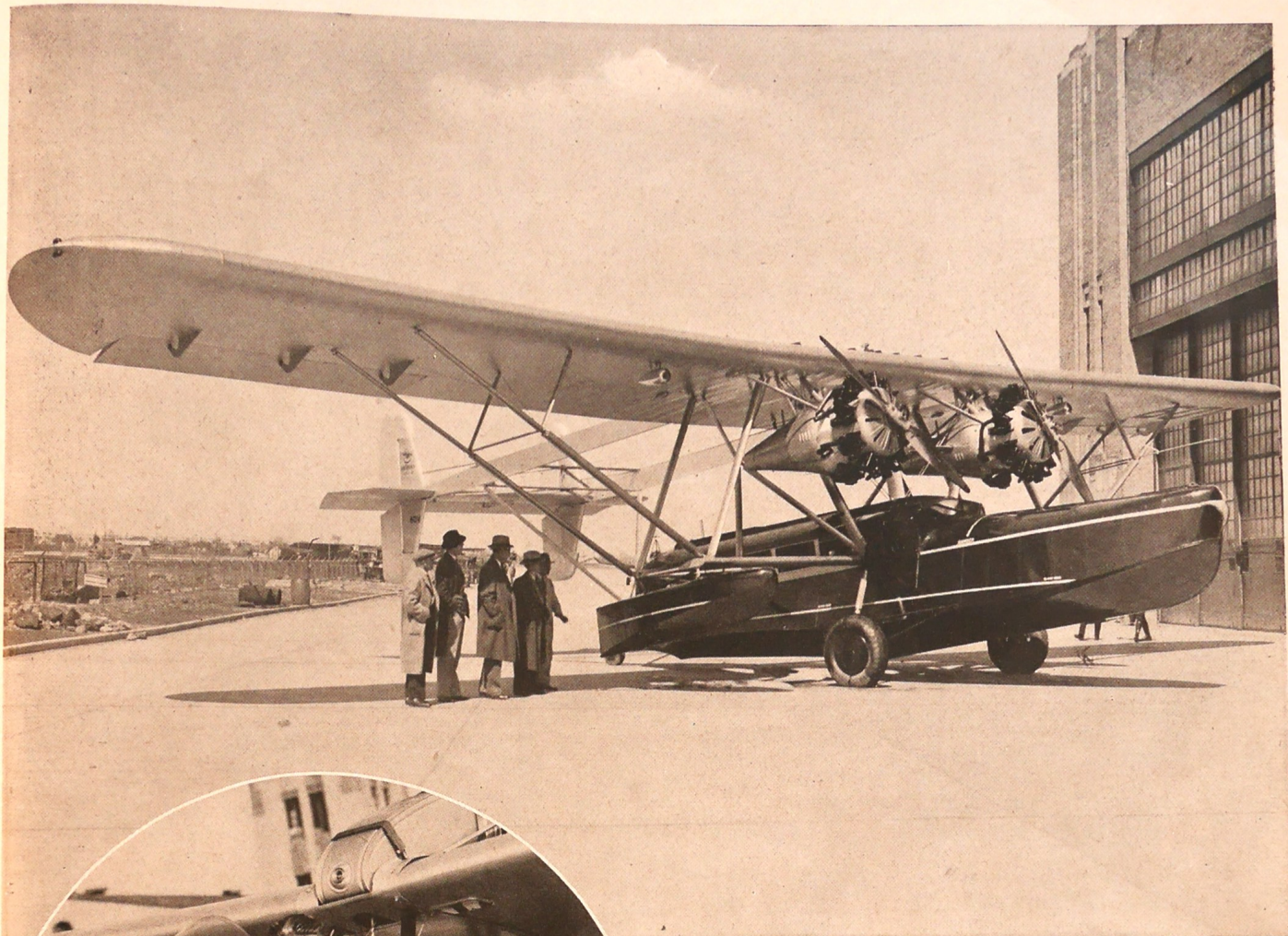
寫眞は向つて右から早川雪洲、同鶴子夫人、伊藤へーゼル夫人、伊藤道郎氏

逆富士で知らる

河口湖

河口湖は富士五湖中最大の湖で、周圍四里廿六町、水深七十二尺、杳形に潭碧の水を湛えて湖畔は綠樹欝蒼、閑雅幽邃を極めて、風光に富み、産屋ヶ崎、數島ノ松、鵜ノ島等の勝地がある。あなた面もこなたおもてもおなじ姿に見える八面玲瓏な大芙蓉の麗容を湖面にうつす逆富士の奇觀は、富岳畸形中の隨一を以つて知られてゐる

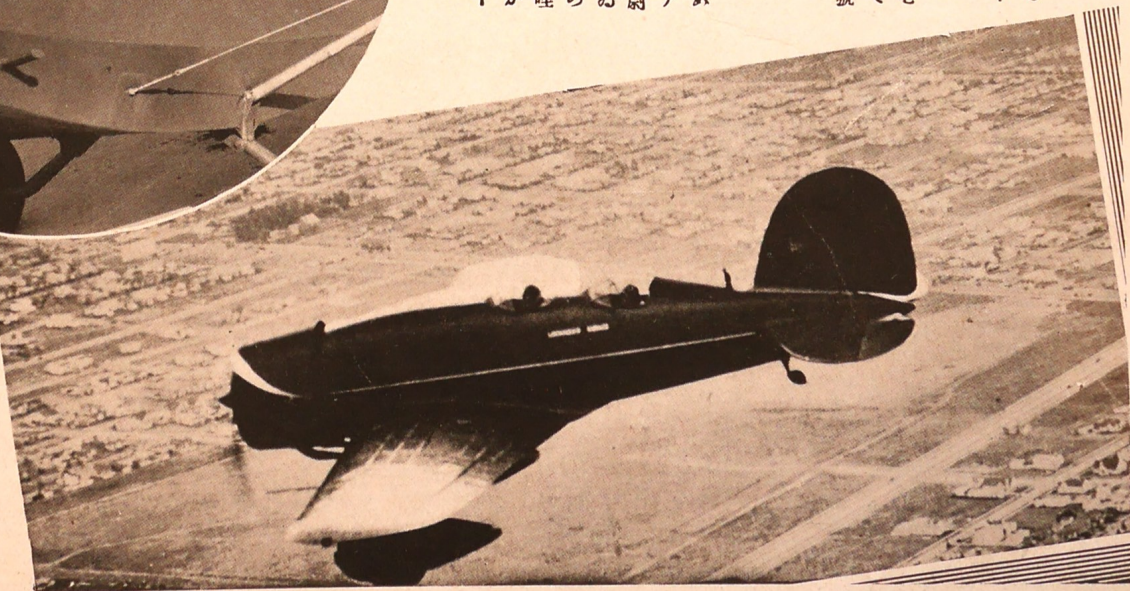
可愛い坊やが空の旅 年少者の新レコード

まさに飛行機時代――賑やかな航空界のニユースは本誌が毎月の樣におしらせしてゐますがアメリカでは飛行機の實用化時代はもう通り過ぎてスポーツ化されてゐるさうです。

これはスペインでの話ですが當年とつて僅か二歳の赤ちやんが飛行旅客となつて百幾十里、一人旅を續けたといふ愉快な話があります。惜しい事にその坊やの名前が判然しませんが首府マドリードから南部グアダルキビル河畔の舊都セビーラまで親を訪れて遙々百幾十里、空の旅を續けたといふのです。可愛い子には旅をさせろとは諺にある事ですが、これは又何と大膽な思ひ切つた一人旅ではありませんか。寫眞は年少者の飛行レコードを作つたそのベビーさんである。

世界最大の水陸兩用機（上）

世界最大の水陸兩用機として米國デイトロイトで建造中だつた飛行機は此程竣成し、シコルスキーと命名された。同機は旅客十六人乘り、五七五馬力の發動機二箇を備へてゐる。寫眞はシコルスキー號である。

モズリー中佐の低速度飛行（中）

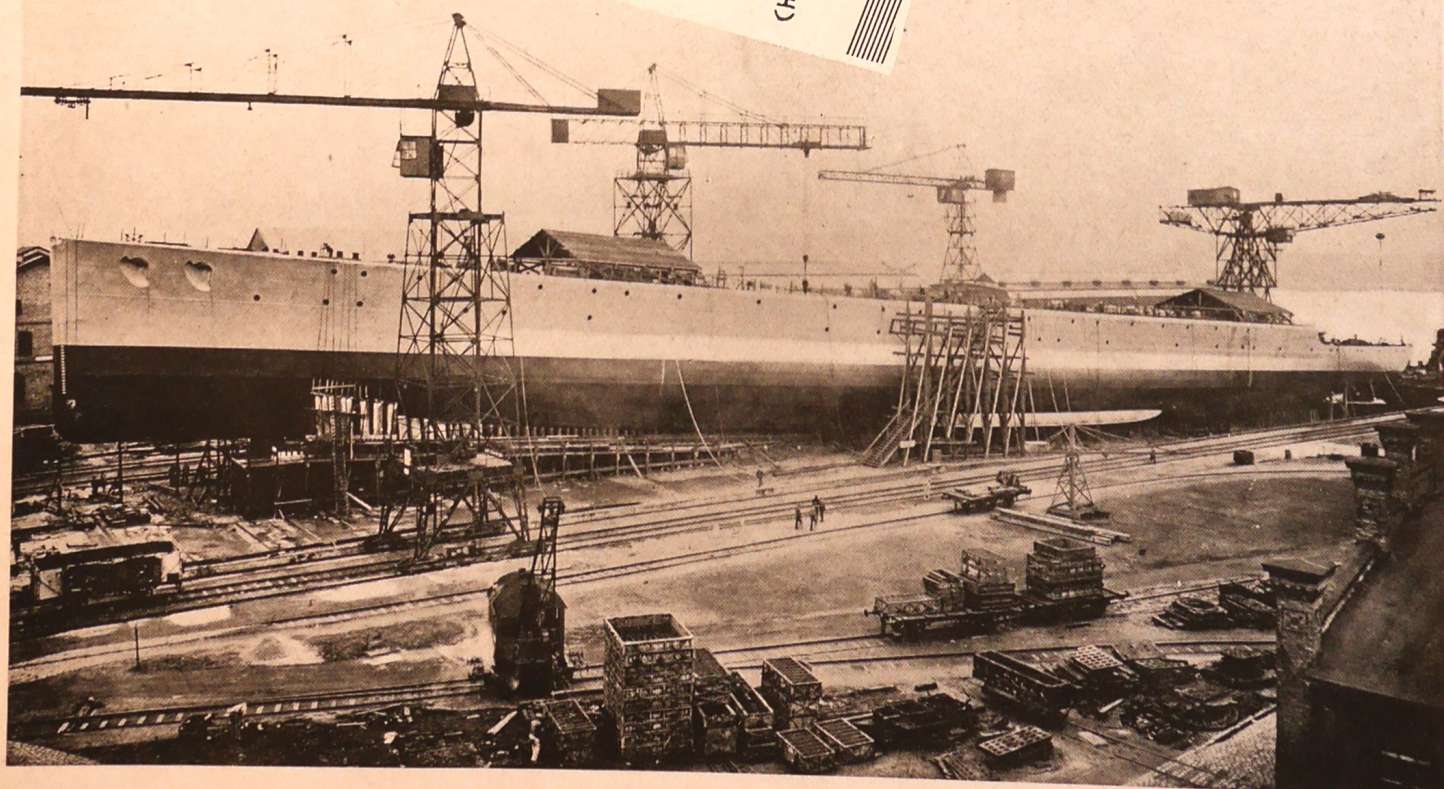
その昔飛行機が出現し初めた頃速度レコードでプリッアー賞を獲得したモズリー中尉は今累進して中佐となつてゐるがこの程カリフォルニアのグレンデールで一時間廿五哩の低速飛行を行ひ世界を驚かした。寫眞は機上のモズリー中佐。

リンデイー大佐の太平洋横斷機（下）

太西洋横斷で、餘りにも有名なリンドバーク大佐は六月四日突如北太平洋の横斷飛行計畫を發表して、世界に大センセーションを捲起してゐる。寫眞は氏が乘用すると傳へられる單葉機である。

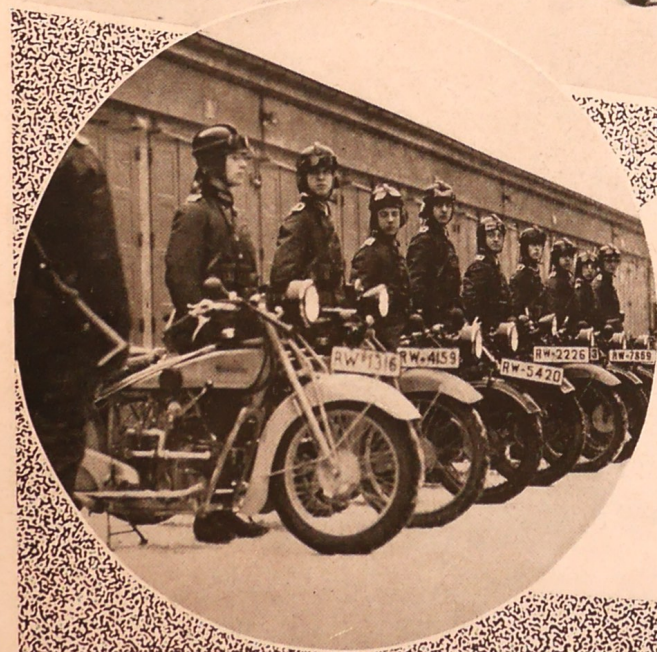
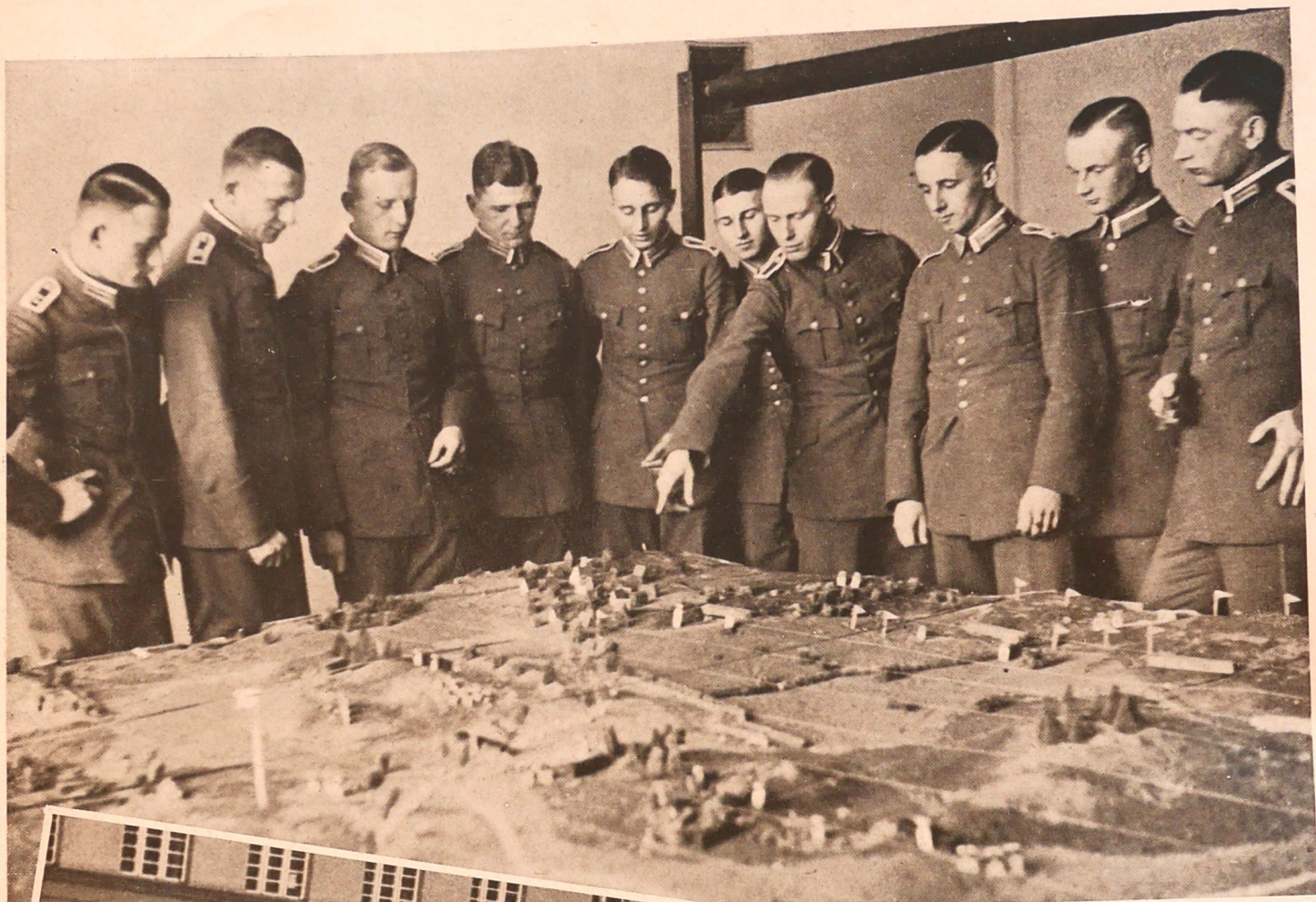
米海軍の新潜航艇（上）

御互に人類の福祉、世界の平和を唱へても軍備の充實に吸々たるものがある。寫眞は米海軍の新潜航艇九隻が費府の海軍ドックに集まつた所で、九隻とも新編成によつて潜航艇隊〇隊に編入せられた

獨逸の新型軍艦（下）

最近進水した獨逸の新型軍艦で、條約の範圍外には一兵の增加をも許されぬ獨逸では質的優秀を目ざして進んでゐるが同艦も僅か一萬噸ながら戰闘力は二萬噸巡洋艦に匹敵するといふ。五萬馬力のディーゼル汽關で、一萬一千浬を燃料の補給なく航走し得るといふ。

ドイツ陸軍の兵營生活

歐洲大戰前の軍國ドイツ陸軍の尨大さは現在のドイツ陸軍には片影だに見出せない。ヴェルサイユ條約其の他の條約で國防力を限定されたドイツ陸軍は、現在歩兵七師團、騎兵三師團で、他に二個の本部附屬隊に編成され正規兵約一〇萬であるが、新兵の募集組織はヴェルサイユ條約によつて志願制度と決定され、年限は十二ケ年である。將校は引續き二十五ケ年間現役に止まる規定となり、陸海軍の總司令官は大統領である、陸軍の編成は歩兵、騎兵、砲兵、工兵、鐵道兵、軍醫、交通等からなつてゐるが、要塞及び沿岸防禦の施設は殆んど禁止され、また陸軍用の航空機も使用されない事になつてゐる。海軍も同樣に制限をうけ全兵員一萬五千の超過を許されずありし日の精鋭無比なドイツ陸海軍に比し、まことに今昔の感がある。

歐洲大戰前は毎春壯丁の身體と、精神力を鑑査して、兵をとつたのであるが、現在は一年間三四萬の新兵募集に、應募者は約十倍を算するといふ（寫眞上圖）はポーツダム第四聯隊に於ける志願兵の徴兵である。（寫眞下圖）は採用された志願兵が、衣替へをして、いよ〳〵數分後には一ツ端しの兵隊さんにならうといふ瞬間である。

聯合側二七ヶ國の精鋭を向ふにまはして同盟側は僅か四ヶ國、その同盟側の中心となつて惡戰苦闘四ヶ年半敗れても恥じない善戰を讃へられたドイツ陸軍は國際會議の定めた數量以外に一兵の增加さへ許されぬとはいへ、軍の實際勢力、威力は單にその量のみで測定は出來ない。列强の鋭い目を滿身に浴びながら少い兵員を以つて質的に優秀ならしめる爲めに努力を常に怠らないのが獨逸魂である。前頁に掲げた一軍艦が噸數僅か一萬噸ながらその戰闘力は二萬噸の巡洋艦に匹敵するなどもその一端を示すものであるが、ここに掲げた寫眞は爭闘力に富む、不屈不撓力に秀でた獨逸魂の典型ともいふべき靑年士官敎育の狀態で（上圖）は模型によつて部隊動作の理論を敎授する所で（中圖）は地雷敎練の見習士官（下圖）オートバイ運轉の見習士官である。

皇太后陛下が、まだ九條公家姫君であらせられた御頃、御愛用あらせられたピアノは東宮妃とならせられて新しいピアノを御取寄せの後御里方九條家にお下になられたが、九條家では目下姫君もないところから現公爵は、公爵家の附近にある氷川小學校の新築落成記念にこの由緒あるピアノを御寄贈に相成り既に同小學校で生徒の教授用に愛用されてゐる。寫眞はそのピアノである

頭山滿翁喜壽祝賀會は一條公を始め、政界學界其他朝野名士六百餘名の發起で五月二十九日、七十七歲の誕生日をトし、午後一時から日比谷公會堂で催された。右から三人目頭山翁、同夫人、犬養氏

吉田東京驛長は今年六月一日を以て鐵道奉職滿四十年に相當したので東京管內有志發起で當日東京ステーションホテルで四十年勤續祝賀會を開き本省からも靑木次官以下出席し記念品を贈呈した。

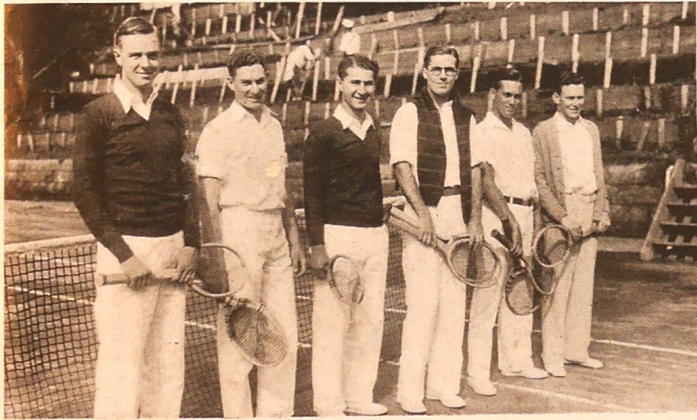
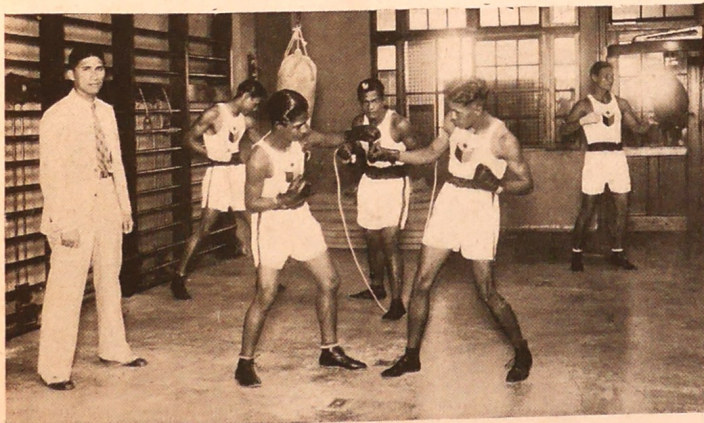
天皇陛下には六月四日午後二時から宮中御學問所にお茶の會が催され東京科學博物館長秋保安治氏を召されて同館に就き御進講を約一時間に亙り御聽取遊ばされた。寫眞は光榮に浴した秋保館長。

皇國の興廢を一擧に決した光輝ある日本海々戰第廿六回記念日は初夏の新綠滴る芝公園水交社に於て、天皇陛下親しく臨御、東鄕、山本兩大勳位、軍事參議官以下海軍將星參列の下に盛大な記念賀宴が催された。奉天大會戰と共に、皇國の浮沈を決したこの日、時の司令官東鄕大將の感慨や如何に、寫眞は小學生よりなる東鄕會の子等の萬歲の聲に送られて祝賀宴に赴く東鄕元帥。

エアーガールに對抗して船上サービスを受持つマリンガールといふ女子の新職業が一つ增えた。これは東京灣汽船が遊覽船に尖端ガールを乘込ませて船上サービスをやらせやうといふ新しい試である

大正十三年守屋東女史が南洋から連れて來て小學教育を受けさせたリーナ、アンナの二人は目出度戶山小學校を卒業し八年振りで故國に歸る事となつた。寫眞はリーナ(一八)さんとアンナ(一六)さん

牛込岩佐高女の女生徒達は先生とはかつて、附近兒童の情操教育に乘出す事となり、童話協會等の助力の下に五月廿三日午後一時半から校內にその發會式を擧げた。寫眞は發會式の光景である。

先頃來朝し、その妙腕を振つて我樂壇を賑はした歐洲樂壇の巨匠、提琴家として有名なヨセフ、シゲッティ氏は日本音樂研究のため五月廿六日、長唄の杵屋六左衛門師を麹町永田町の自宅に訪問し、三味線の持つ複雜な味に驚異の眼を見張つて、頻りに質問を杵屋に發した。寫眞は紋付羽織で手ほどきを受ける樂聖シゲッティ氏と杵屋氏夫妻である。

慶應大學庭球部の招聘に依る加州大學庭球チーム一行十名は、六月二日郵船春洋丸で來朝、帝國ホテルに入つたがすこぶる元氣で、同日午後三時から大森慶大コートで初練習を行つた寫眞は選手一行

東洋アマチュア拳闘選手權を目ざして來朝中の比人學生選手一行は、六月三日午後神田青年會館に於て職業選手ダヤオを相手に初の猛練習を行つた。寫眞は同館體育室に於ける猛練習ぶりである。

ブラジル大使エス、グルゲール、アマラル氏は五月廿二日着任したが廿三日には外務省に幣原外相を訪問着任の挨拶をなし信任狀捧呈の期日を打合せて辭去した。寫眞は外務省訪問の新任ブラジル大使

日本風景の絶勝一卷に展望さる。

定價金貳圓

（送料）內地、臺灣、滿鮮拾錢
外國金貳拾八錢

『日本風景美觀』は、我が社の代表的出版として非常なる好評を博し、賣行き眞に無限の盛況であります。收載寫眞の優秀、編輯の高雅、製版印刷の鮮麗は、斷然從來寫眞書報の追隨を許しません。盛夏の候、綠陰に本書を繙いて心氣の高朗を味はるゝもよし山の旅、海の旅への伴侶としても又絕好の風景大書冊であります

◇四六四倍版「國際寫眞情報」と同型表紙オフセツト十數度刷廣重筆「阿波鳴門」……
◇原色版大判八葉……
◇原色版額面用臺紙貼込十四葉……
◇二色合成版大判九葉……
◇クリーム・アート紙美術印刷十六頁……
◇單色寫眞版二十四頁……

本誌御購讀の方へ

◆本社名を以て金錢上その他如何はしき申出を爲した者がありましたら、御手數でも一應本社へ直接御照會下さるよう御願ひします。近來本社名を利用して種々不都合をなすものがある由ですから特に御注意下さい。

◆本誌配本上其他に付不都合の行爲がありましたら、東京市內は表紙取扱欄に押捺してある番號により、又地方は必ず住所氏名を記載した取扱者の印を押捺させることになつてゐますからそれによつて直接本社へ御申出で下さい。

◆本誌は遲くも每月十日迄に配本せぬような場合は本社へ御通知下さい。早速便宜の方法で御送りします。

◆本誌は書店で賣らぬことになつてゐますから購讀御希望の方は直接本社に御申込下さるか、全國各地の支局に御申込下さい。

◆本誌の誌代はすべて配本の際引換えに頂く規定になつてゐますが、前金を御拂込下さる際は直接本社宛に願ひます。本社宛直接御拂込以外は一切責任を負ひませんから御承知おき下さい。（御送金は振替東京四五〇〇番を御利用下さることが一番確實です）

定價
一部金六拾錢
一ケ年分 月極金五拾錢 送料二錢
海外一部送料 金六圓 金十錢

無斷轉載複製を禁ず

昭和六年六月二十日印刷納本
昭和六年七月一日發行
東京市麴町區內幸町一ノ三
發行、編輯兼印刷人 石原俊明
東京市麴町區內幸町一ノ三
印刷所 國際製版印刷所
東京市麴町區內幸町一ノ三 太平ビル別館
發行所 國際情報社
振替東京四五〇〇番
電話銀座 二一八六 二一六〇六

THE PICTORIAL WORLD

大正十五年十一月十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和六年六月二十日印刷納本　昭和六年七月一日發行

VOL. 7. JULY NO. 7.

PUB. BY KOKUSAI JOHO SHA TOKYO JAPAN